

ひろしま郷土資料館だより

NO.108

企画展 デルタの三山 ー比治山、黄金山、江波・皿山の今昔ー

会期：令和6年5月18日(土)～7月7日(日)



▲上左：芸州広島城町割之図・部分（山口県文書館蔵・提供）に描かれた江波山
 上右：元和五年御入国之砌御城下絵図・部分（広島市立中央図書館蔵・提供）に描かれた比治山
 下：芸州広島図・部分（広島城蔵・提供）に描かれた黄金山

令和5年度に、G7広島サミット開催に合わせて実施した企画展「別世界 元宇品ー陸地とつながった島の変容ー」が好評であったことから企画した展示です。かつては河口近くの浅い海に浮かぶ島で、現在は広島市街地にある低山である、南区にある比治山と黄金山そして中区の江波山・皿山を三山と定義し、市民に親しまれている緑豊かな憩いのスポットの今昔をパネルと実物資料で紹介しました。

三つの山の紹介をする企画でしたが、山を別々に紹介するよりも、三山に共通する項目を集め、9つのキー

目次

- P 1-3 企画展「デルタの三山
ー比治山、黄金山、江波・皿山の今昔ー」
- P 3-5 企画展「夏休み おばけの博物館」
- P 5 郷土資料館 被爆建物案内
- P 6 博物館実習・インターンシップ

- P 7 活動報告 教室事業日程一覧
その他事業（館外事業）一覧
(令和6年4月～9月分)
- P 8 SNS 新設のお知らせ
- P 8 令和6年度後期企画展の予定

ワードで紹介するという手法でまとめました。また、山とその周辺も範囲とし、山によって構成された地域文化なども展示することにしました。

こうしてまとめた展示構成は①「島」：時代で振り返る三山のデルタへの融合、②「山」：自然に囲まれた三山の原風景、③「歴」：三山がはぐくんだ広島歴史と文化、④「海」：海辺の風景と三山での暮らし、⑤「人」：三山という地域特性が生み出した営み、⑥「憩」：公園という新たな都市空間と三山、⑦「軍」：三山にひしめく軍事施設と戦争の影、⑧

「復」：原爆被害とよみがえる三山、⑨「未」：変わりゆく三山とその今後 でした。この企画内容の趣旨に沿った多種多様な資料を借用して展示構成しました。

黄金山周囲の資料としては、黄金山の地形図や海の測量地図（保田家資料）を紹介しました。例えば黄金山周囲の明治期の地図では、丹那地区や楠那地区のものは、当時の道が現在でも使用されたり当時の海岸線が現在では道になっていたりするなど、現在と比較する面白さを感じてもらえました。海の測量図では、牡蠣養殖だけでなく当時盛んであった海苔養殖が記載されているものもあり、黄金山の海辺の賑わいの一端を伝えることが出来ました。

江波の資料としては、まぼろしの江波焼探偵団の協力のもと、近年道路工事などで発見が相次ぐ江波焼資料を紹介しました。江波焼とは、江戸時代後半に江波皿山南東付近にあったとされる窯で作られた焼物のことです。今回、敢えて完形品をほとんど借用せず、窯があったからこそ出土する、焼物製作時にくっついてしまった碗や、焼くときに使用する道具などを中心に展示し、江波焼の実像に迫りました。

比治山の資料としては、御便殿で使用されていた椅子や刀掛けを紹介しました。御便殿は明治27年（1894）の日清戦争時に来広した明治天皇の休憩所で、後に比治山に移築されて戦前広島を代表する名所でしたが、



▲展示会場の様子
資料と写真を中心に9つのパートに分けて展示



▲展示の様子
江波島付近の風景を描いた山田雪塘の画と
頼事庵による画賛の掛軸などを展示



▲展示解説の様子
江波焼資料を紹介しているところ

原爆で倒壊し、現存しません。戦前の比治山が歴史的な空間であったことを示す資料として紹介しました。

その他、三山の自然を詠んだ頼家関係の掛軸、江波にあった広島地方気象台で実際に使用した気象観測機器、江波皿山に陸軍の射的場があったことによって出土する大砲や鉄砲に使用する発射薬を詰める容器である「薬莢」、比治山に現存する頼山陽文徳殿などを写した絵葉書、平成に入って開館した現代美術館やまんが図書館の開館時の資料などを展示しました。

デルタの三山全体としては、様々なアマチュアカメラマンが撮影した写真を中心に 307 枚もの写真を展示しました。戦前から戦後、特に昭和30年代頃の写真を中心に、古き良き昭和の広島の日常を思い起こさせてくれる昔の漁村の風景や建物、そこに暮らす人々などの写真を通して、三山の日常を感じていただきました。カメラが高かったこともあり、あまり多く残されていない貴重な写真を通して、都市化が進行していきつつあった戦後の三山を紹介することが出来ました。

39 カ所の御協力先から多くの資料の提供や御教示をいただき、実物資料61点や写真資料をバランスよく展示することができ、多くの市民の方に好評を博しました。

また、展示期間中の5月25日(土)と6月1日(土)の両日には、南区の三公民館(仁保・大河・楠那)と連携して黄金山を一周する企画展関連イベント 歴史散策「ぐるっと黄金山」を実施し、フィールドワークを通して黄金山の変遷をガイドし、相乗効果を高めました。(玉置和弘)

会期中の来館者数：1,283名



▲歴史散策「ぐるっと黄金山」の様子

企画展 「夏休み おばけの博物館」

会期：令和6年7月20日(土)～8月25日(日)

おばけ(妖怪)を通して人々の想いや生活を体験する、楽しくて少し怖い夏の恒例企画展です。

1階は小さな子どもたちを中心に、ご家族や若い人たちがちなど多くの方々に楽しんでいただけるたくさ



▲宇品島に伝わる伝説の妖怪
狗養(ぐひん)さん

んのコーナーを作りました。2階はご希望の多い、少し涼しくなただけのような「怖い展示」を企画しました。ただ怖いだけではなく、郷土資料館らしく、歴史のできごとをテーマに、おばけ屋敷の疑似体験ができるような展示としました。今年は「日本三大怨霊の一人 崇徳上皇」を取り上げました。崇徳上皇の京都から讃岐国(香川県)での生活や天狗伝説を、妖怪と共に時代を追って見るができるようにしました。もちろん、おばけ(妖怪)を中心に楽しむこともできました。

【2階展示】

●2階企画展示室<昔のおばけ屋敷の迫体験>

・入口の学習コーナーでは、スタッフから崇徳上皇がなぜ怨霊になったのかを解説図や絵などを見ながら話を聞き、お子さま向けには、室内で展示している妖怪のメンバー紹介一覧を表示しました。(妖怪は2階企画展示室には20体展示)

・京都から讃岐国に配流され怨霊になってしまうまでの崇徳上皇の伝承を、妖怪たちを見学しながら、たどることができました。最後の井戸の中に見てはいけない恐しいものが…。



▲企画展示室入口
京都御所宣秋門(四脚門)のイメージで

【1階展示】

●崇徳上皇配流の地、讃岐国(香川県坂出)の上皇伝説の地 現地レポート

・伝説の地の写真や地図を展示し、崇徳上皇を巡る人間関係を天皇系図を基に解説をし、「院政」「保元・平治の乱」の説明もしました。平安時代のドロドロとした貴族の人間関係から歴史を学ぶと、しっかり理解でき、忘れられないと思います。受験生必見でした。



▲おばけ屋敷デビューコーナー内部

●おばけ屋敷(疑似体験)デビューコーナー

・「おばけ」が初めてのお子さんへ、「おばけ」というものが苦手な大人の方のために、明るい部屋に妖怪を6種類7個体展示しました。このコーナーで妖怪に慣れて2階の展示室へGO!

●香川県の郷土玩具展示コーナー

・崇徳上皇が配流された讃岐国(香川県)の「滝宮のウソ」「観音寺の太鼓台」などの郷土玩具を9種類21点集め展示しました。

●世界一早い?! 年賀状作成コーナー

・大晦日に慌てないように夏の内に年賀状(年賀メール)を作ろうというコーナーです。来年の干支は「蛇」。そこで、人面蛇身の妖怪「ぬれ女」さんと一緒に写真を撮っていただきました。「蛇」だけに、運氣・金運上昇が期待できます。



▲世の中でいちばん怖いものは...?
来館者に答えてもらいました

●「世の中でいちばん怖いものはなんですか?」コーナー

・世の中でいちばん怖いものを付箋紙に書いてボードに貼っていただきました。週間ランキングを発表しました。みなさんの怖いものって何ですか? 子どもの怖いもの、大人の怖いもの。ユニークな回答や考えさせられる回答までいろいろでした。

【総合ランキングは、館内や郷土資料館公式 SNS で発表しました。】

●つくも神作家、八木一文さんのつくも神フィギュア大集合

・9 作品（新作3 点・つくも神かめおさ、つくも神ちよくぼろん、俵藤太の大百足退治）のつくも神フィギュアが展示されました。バックのジオラマも精巧で面白いです。

毎年に楽しみに来ていただいているリピーターの方が増えたり、小学校に配布しているチラシ枚数を増やしたり、SNS の発信を行ったためか、来館者が昨年度より大幅に増えて、37 日間の開催期間（うち開館日数32 日）で13,426 人の方々に来ていただきました。来館者からは概ね好評なご意見をいただきました。

ただ、来館者が1 日400 人を超える日が土・日曜日を中心に14 日もあり、最終日は778 人の来館者がありました。郷土資料館の施設の規模や職員数からして、これ以上入館者が増えるとサービスや満足度の低下が懸念されます。来年度も楽しみにご来館いただく方を考え、また行ってみようと思われる魅力的な内容はもちろんですが、効率的な展示見学や来館時間の分散などの方法や案内などが今後の課題です。（河村直明）

会期中の入館者：13,426 人



▲世界一早い！？年賀状作成コーナー
来年の干支「蛇」にちなんで、人面蛇身の妖怪
「ぬれ女」と写真を撮るコーナー

スペシャルイベント 「郷土資料館 被爆建物案内」

開催日：令和6年8月6日（火）

79 回目の広島原爆の日である8 月6 日（火）に、被爆建物である当館建物（旧宇品陸軍糧秣支廠缶詰工場）の解説などを行う「被爆建物案内」を行いました。

玄関ホールにある原爆の爆風で曲がった天井の鉄骨を見ながら、被爆時の状況説明など、当館建物が明治44 年（1911 年）に建設されてから113 年間の歴史を解説しました。常設展示室の「昭和の茶の間と台所」コーナーは、夏休み期間中は戦時中バージョンに変更し、2 階講堂では、昭和7 年（1932 年）に宇品港から出港する兵士や見送る広島市民の様子が記録された映像の上映を行いました。

昨年、お好み焼きのルーツである「一銭洋食」を作って試食するコーナーを復活しましたが、加えて、今年は戦中戦後の困窮食の「江波団子」の試食も復活させました。「江波団子」を試食された方は、「！？」の味に戦時中の食事に思いを馳せました。

学芸員実習中の2 名の大学生も解説や試食コーナーでなど大活躍しました。

多くの方にご来館いただきました。戦争と平和について改めて考えていただきました。（河村直明）
イベント参加者数：505 名



▲曲がった鉄骨の説明の様子



▲「一銭洋食」と「江波団子」の試食の様子

博物館実習 実施期間：令和6年8月1日(木)～8日(木) (4日(日)は休み)

今年度も博物館実習生を受け入れました。例年、定員5名の枠を超えるのですが、今年度は定員に満たない2名で実施しました。大人数の例年の場合、8月6日に実施している「被爆建物案内」「昭和のくらし案内」のガイドと「一銭洋食づくり」の試食補助の三つをローテーションで行うため、一人当たりの対応時間がどうしても少なくなっていますが、今年は二人であることから「被爆建物案内」のガイドに十分時間を取って、解説をすることが出来ました。

また、少人数のため、展示資料の取扱い実習と並行して、その資料を使用したミニ展示にも挑んでもらいました。一人が戦時中の兵士の日常、もう一人がそれを支える銃後※というテーマでキャプション作りも含めて行うという高度な内容でした。しかし、能力を十二分に発揮した内容の展示を完成させ、8月6日には来館者にも見てもらい、好評でした。

その他、工作教室の補助、資料の梱包実習、当館で実施している学校向けの事業体験などを行いました。プログラムはやや盛沢山ではありましたが、例年にない内容を織り交ぜたこともあり、実りある一週間となり、当館としての博物館実習の役割を果たすことができました。(玉置和弘)

実習生：広島市立大学、安田女子大学 計2名

※銃後…戦場の後方にあたる一般国民のこと



▲資料の梱包実習の様子



▲実習生による展示の様子

インターンシップ 実施期間：令和6年8月27日(火)～31日(土)

大賑わいの「夏休み おばけの博物館」が終わった後に始まったインターンシップ実習ですが、バックヤードはそれなりに忙しく、企画展「『ごんぎつね』が語る昔のくらし」の展示準備や、今年度から始めたSNSの原稿作成、資料データの入力などに従事していただきました。

期間中大型台風の接近により1日臨時休館となりましたが、最終日まで真摯に取り組んでいただきました。

実習生：安田女子大学 1名



▲展示していた資料の撤収の様子

活動報告

令和6年4月～9月

教室事業

実施日	事業名	参加者
4月20日(土)	教室 「かしわもち作り」	18名
4月27日(土)	企画展関連イベント フィールドワーク 「歩いて楽しむ、本通」	20名
4月29日(月・祝)	昭和の日イベント 「郷土資料館建物ウォッチング」	21名
5月3日(金・祝)	GWお楽しみイベント① 「フラワーふきあげパイプ作り」	23名
5月4日(土・祝)	GWお楽しみイベント② 「クルクルかざぐるま作り」	26名
5月5日(日・祝)	GWお楽しみイベント③ 「からくりコイのぼり人形作り」	18名
5月25日(土)	企画展関連イベント 歴史散策「ぐるっと黄金山」 1回目	21名
6月1日(土)	企画展関連イベント 歴史散策「ぐるっと黄金山」 2回目	21名
6月16日(日)	大人向け教室 「藍染めTシャツ作り」	20名
6月22日(土)	教室 「藍染めTシャツ作り」	18名
7月28日(日)	スペシャルイベント 「ファイヤーバンドふれあいコンサート ～安全・安心な街づくりのために～」	66名
9月28日(土)	教室 「『ごんぎつね』おはなし会」と工作「きつねのマジックカード」	18名

夏休みわくわくイベント

実施日	事業名	参加者
7月24日(水)～7月26日(金)	「ぬれても平気なポシェット作り」	124名
7月31日(水)～8月2日(金)	「おばけストラップ作り」	156名
8月21日(水)～8月23日(金)	「紙コップけん玉作り」	138名

その他の事業(館外事業)

実施日	事業名	主催等	参加者
6月1日(土)	解説「ヒロシマ・ピースフォーラム 暁部隊(陸軍船舶司令部)と宇品港」	広島市・公益財団法人広島平和文化センター ・広島市立大学	67名
6月2日(日)	体験指導「広島城メモリアルデー ・昔の遊び体験(めんこ遊び)」	公益財団法人広島市文化財団 ・広島城	416名
6月21日(金)	講演「日本100名城で探る城めぐりの魅力！」	公益財団法人広島市文化財団 ・沼田公民館	67名
7月19日(金)	講演「日本100名城で探るお城めぐり入門」	公益財団法人広島市文化財団 ・高陽公民館	18名
9月7日(土)	講演「広島城下絵屏風と城下町」	公益財団法人広島市文化財団 ・藤の木公民館	15名
9月11日(水)	講演「秋の行楽にもってこい！ 日本100名城に行ってみよう」	公益財団法人広島市文化財団 ・真亀公民館	44名
9月30日(月)	講演「日本100名城で探るお城めぐり入門」	公益財団法人広島市文化財団 ・二葉公民館	33名

S N Sを新設しました



▲ Facebook

今年度から郷土資料館のSNS（Facebook、Instagram、X、LINE VOOM）を新設しました。広報効果に期待をしたいと思います。



▲ X



▲ Instagram

＜郷土資料館マスコットキャラクター＞



▲ れんガール



▲ でるたこ（2代目）



▲ LINE VOOM

令和6年度(2024) 後期企画展紹介

企画展 「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」

令和6年9月7日（土）～11月24日（日）

新美南吉の童話『ごんぎつね』のストーリーを交えながら、童話に登場する昔の道具や人々の暮らしを紹介します。



ごんぎつねと昔の道具

企画展 「実は広島3 日用品編一」

令和6年12月7日（土）～令和7年2月24日（月・振休）

全国的に広く知られている企業や製品の中には、広島発祥であったり、広島が大きなシェアを持ったりしていながら、そのことが案外知られていないケースがあります。今回の展示では、そうした事例の中から日用品に関わるものをご紹介します。



「強力フマキラー液」広告（一部）
昭和6年頃 当館蔵

企画展 「図面で見える宇品陸軍糧秣支廠」

令和7年3月8日（土）～5月6日（火・振休）

旧宇品陸軍糧秣支廠のかつての姿を、缶詰工場・事務所棟といった建物や設備をはじめ、使用されていた道具、什器類など多岐にわたる図面類から垣間見ます。



男女工休憩室正面屋上之飾之図（部分）当館蔵

状況により、展示会期・教室事業等の変更または中止の可能性があります。
あらかじめご了承ください。最新の情報は当館ホームページ等でご確認ください。

ひろしま郷土資料館だより No.108

令和6年（2024）10月31日発行

編集・発行 （公財）広島市文化財団 広島市郷土資料館

〒734-0015 広島県広島市南区宇品御幸二丁目6-20

TEL (082) 253-6771 FAX (082) 253-6772

URL <http://www.cf.city.hiroshima.jp/kyodo/>



広島市郷土資料館

HIROSHIMA CITY MUSEUM OF HISTORY AND TRADITIONAL CRAFTS